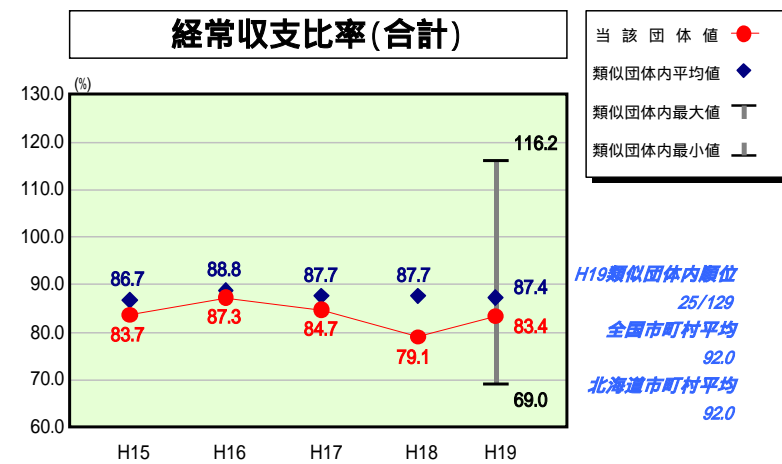


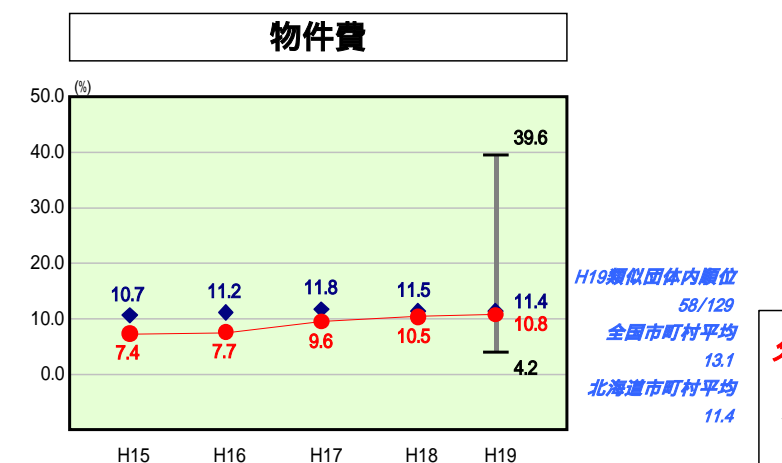
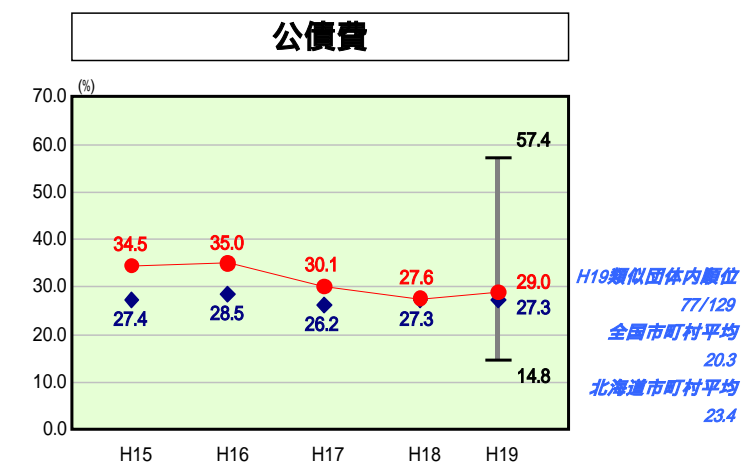
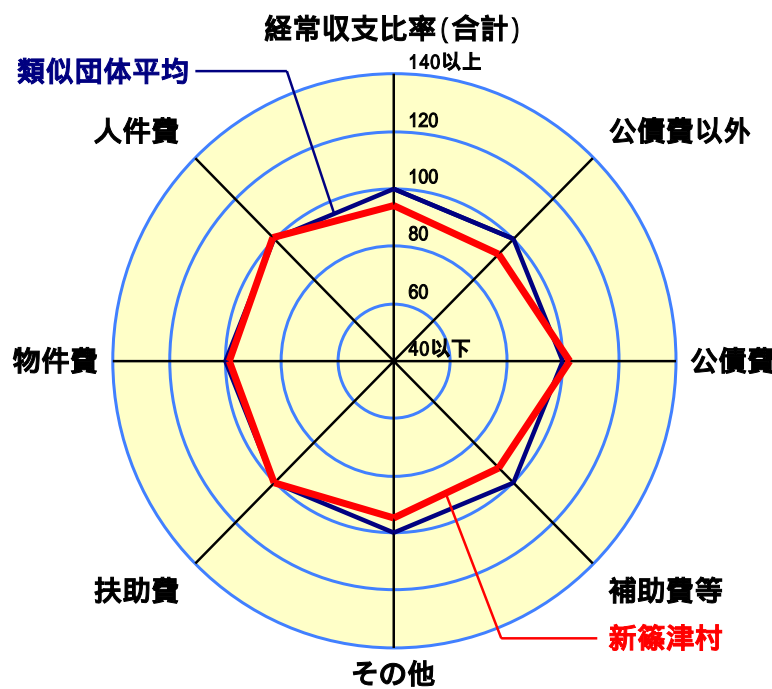
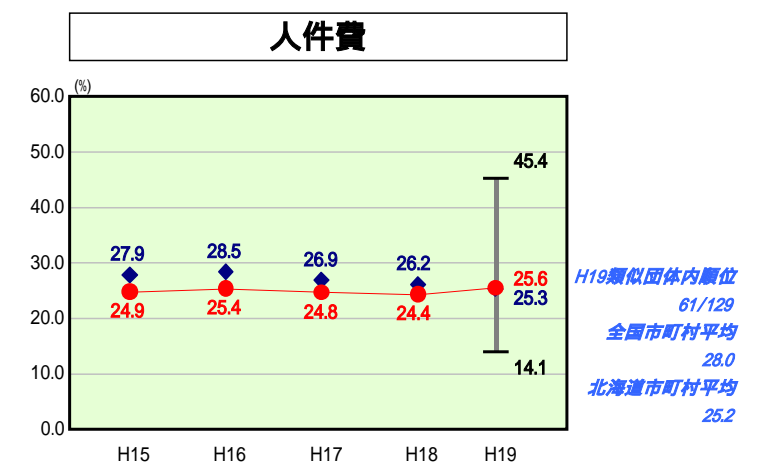
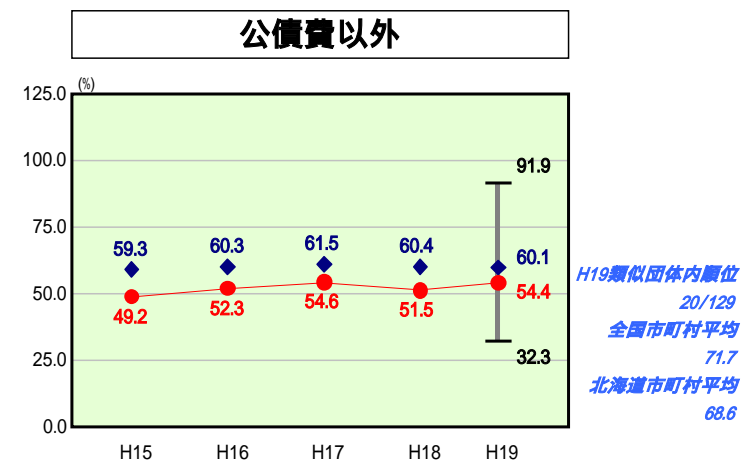
歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

北海道 新篠津村

経常収支比率の分析



人口	3,736人(H20.3.31現在)
面積	78.24 km ²
歳入総額	3,942,892千円
歳出総額	3,867,541千円
実質収支	74,221千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費:
 類似団体平均と比較すると、ほぼ平均になっています。これからも、民間への業務委託や「財政健全化プラン」「集中改革プラン」を基に、一層の人件費抑制や適正化に努めていきます。

物件費:
 類似団体平均と比較すると、ほぼ平均になっています。やや低い数値になっている一つの要因としては、「財政健全化プラン」による、日当旅費の廃止や事務事業の見直し等によるものであります。引き続き同プランに基づきながら、物件費の抑制に努めていきます。

公債費:
 類似団体平均と比較すると、やや高い水準となっていますが、大規模事業を当該年度のみ負担を行うことは、負担の公平性からいっても、財政運営上、単年度でやりくりをするにはなりません。そのため、どうしても行わなければならない事業につきましては、地方債を借り、公債費の償還を行うこととしています。これからも、地方債の新規発行を伴う普通建設事業につきましては、できる限り抑制しながら、適正な水準に努めていきます。

普通建設事業費:
 人口1人当たりの決算額は、類似団体平均と比較すると低くなっているが、これは近年の大型事業が終了したこともあり、年々減少傾向にあるためであります。大型事業である道営経営体育成基盤整備事業については、村の基幹産業である農業基盤整備の観点からも引き続き行い、農業振興に力を注いでいきます。今後も財政運営を常に見極めながら、真に必要な事業については、今後も取り組んでいく予定であります。

